



【10月の気象】

▷ 10月になると気温も下がって過ごしやすくなりますが、まだ台風の時期は終わっておらず油断はできません。2014年10月には、台風第18号と第19号の2つの台風によって、本県を含む広い範囲に暴風や大雨などの大きな災害が発生しました。また、2017年には、台風第21号と第22号の2つの台風が四国の南海上を通りました。このうち台風第21号は、10月22日に大型で非常に強い勢力を保ったまま四国の南海上から潮岬の沖合を北上後、23日に静岡県へ上陸しました。このとき、日本の南海上にあった前線の活動が活発化し、本県を含む広い範囲で、浸水や冠水、土砂災害のほか、暴風・強風による災害も多く発生しました。

気象庁では、台風に加え、24時間以内に台風に発達する見込みの熱帯低気圧についても5日先まで予報します。ぜひ、[台風情報](#)を積極的に入手し、早め早めの台風対策や避難行動をとってください。

▷ ひょうによる被害は全国では5月頃に多いのですが、本県では10月にも農作物への被害が発生しています。1992年10月20日は、上空に強い寒気が流入したため、県内の山間部を中心にひょう（直径20ミリ前後）が降り、柑橘類、キウイフルーツ、ほうれん草、イチゴ、水稻などが被害を受けました。1997年10月14日も寒冷前線の通過に伴い、県内各地でひょう（直径10～30ミリ）やあられが降り、柑橘類、柿、キウイフルーツ等への被害が発生しています。

※直径5ミリ以上の氷塊を「ひょう」といい、これより小さい氷粒を「あられ」といいます。

【気象用語】「風速」とは

風速の表し方には「平均風速」と「瞬間風速」があります。気象台が気象情報等で「風速」という場合は「10分間平均風速」のことであり、「瞬間風速」という場合は「3秒間平均風速」のことです。また、それぞれの最大値を「最大風速」及び「最大瞬間風速」といいます。

瞬間風速は、平均風速の1.5倍から2倍、ときには3倍以上となる場合もあります。下記は、今年9月7日に台風第10号が接近した際、県内のアメダスで観測した最大瞬間風速とその時間帯における平均風速です（いずれも速報値）。

伊方町瀬戸	最大瞬間風速 40.8m/s (南、06:21) (観測史上2位)	平均風速 28.4m/s (南、06:30)
四国中央	最大瞬間風速 32.0m/s (東南東、02:58) (観測史上1位)	平均風速 9.1m/s (東、03:00)
宇和島	最大瞬間風速 30.7m/s (南南東、02:45)	平均風速 14.0m/s (南南東、02:50)
愛南町御荘	最大瞬間風速 30.0m/s (東南東、03:35) (観測史上1位)	平均風速 10.3m/s (南東、03:40)

(参考) 風の強さと吹き方 (詳細は[こちら](#))

風の強さ (予報用語)	風速 (m/s)	おおよその 瞬間風速 (m/s)	屋外・樹木の様子	建造物
やや強い風	10以上 15未満	20	樹木全体が揺れ始める。 電線が揺れ始める。	樋(とい)が揺れ始める。
強い風	15以上 20未満			屋根瓦・屋根葺材ではがれるものがある。 雨戸やシャッターが揺れる。
非常に強い風	20以上 25未満	30	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める。 看板が落下・飛散する。 道路標識が傾く。	屋根瓦・屋根葺材で飛散するものがある。 固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。 ビニールハウスのフィルム(被覆材)が広範囲に破れる。
	25以上 30未満			固定の不十分な金属屋根の葺材がめくれる。 養生の不十分な仮設足場が崩落する。
猛烈な風	30以上 35未満	50	多くの樹木が倒れる。 電柱や街灯で倒れるものがある。 ブロック壁で倒壊するものがある。	外装材が広範囲にわたって飛散し、下地材が露出するものがある。
	35以上 40未満			
	40以上	60		

※ 風から受ける風圧は、風速の二乗に比例して増加する。